

日本ALS協会

秋田県
支部だより

第61号

ボランティア募集しています

日本ALS協会秋田県支部では、運営を手伝って下さるボランティアの方を募集しています。支部の活動は、ALS（筋萎縮性側索硬化症）で闘病されている患者さんとともに、

一般社団法人日本ALS協会と連携を取りながら、療養環境改善や社会への理解を深めることを基本にして、下記のような活動をしています。

1. 総会や研修会を開催して、会員相互の情報交換と交流を図っています。
2. 県内の患者さんを訪問して、課題の解決に協力します。
3. 支部だよりを年2回発行し、支部活動を発信しています。
4. 事務局会議を毎月1回（主に土曜日）開催し、関係行事の調整、患者さんやご家族からの相談、関係機関からの相談に対応しています。

現在の事務局は、ALS患者・患者家族・遺族・医療介護関係専門職などさまざまなメンバーで構成されています。

年齢・性別・経験等は不問です。難病中の難病ALSと闘っている患者さんやそのご家族のために、あなたの力を貸して下さい。ご連絡は下記にお願いします。

日本ALS協会秋田県支部

010-0003 秋田市東通7-4-26

電話：090-5838-3606

FAX：018-832-8778

Email：als-akita@outlook.com

目次

平成29年度日本ALS協会県南・県北交流会	2
大湯リハビリ温泉病院患者訪問	6
北海道東北ブロック会議	8
近況報告 腸活始めました	10
会員の作品から	11
追悼 ホーキング博士	12
事務局の機器類紹介	16
事務局からのお知らせ	17
平成30年度(第32回)日本ALS協会 秋田県支部 総会・交流会開催のお知らせ	18
事務局メンバー紹介	19
ご寄付ありがとうございました	20
入会申込書	

平成29年度日本ALS協会県南・県北交流会

県南交流会

武田佳子

【日 時】平成29年10月28日(土)13:00～15:00

【場 所】サンサン横手

【参加者】患者家族2名

事務局員6名(内患者1名) ヘルパー2名 企業の方1名

◆支部長挨拶と近況報告

挨拶というか、なんでも食べられるようになったので、最近は、コンビニのおでんの食べ比べをしている。ローソンは、お出汁が上品。セブンイレブンは、お出汁が甘めでそれも捨てがたい。

オペレートナビをピエゾスイッチで使用しているが、あと6日でお試し期間が終わるため、申請はしている。試してアイコン?がいいらしい。

◆Tさん

発症して10年、比較的緩やかに進行していた。日赤で診断。主治医は横手病院。呼吸器をつけて3年。秋に風邪を引いてからがたがたと体調が崩れた。入退院を繰り返していたがその後自宅で過ごし、退院して1か月で亡くなった。最後は自宅で過ごすことができ良かった。往診、訪問看護も横手病院であった。ヘルパーは4人で24時間ついてもらった。ヘルパーがないときは妻の私がついていた。

本人は呼吸器をつけないと言っていたが、突然着けると言った。主治医も驚き、何度も確認したが、本人の意思はそのままだった。孫の成長も見る事が出来たし、呼吸器を着けて良かったと思う。

入院中のコミュニケーション支援は2回目の入院以降、病院に認められた。市からは3回目の入院から認められた。介護は1か月744時間だった。最初の1か月は議会を通さず、部長決済だったが、延長分は議会で通り認められた。

呼吸器を着ける前も吸引していたが、呼吸器を着けた後は吸引も頻回で、睨まれながら怒られながらの吸引だった。流延が多く、アモレを着けても脇から漏れてくるので着替えが必要であったり、フラットのオムツを切って敷いたりしていた。介護は自分でやらねばならないことだと思っていた。隣の部屋にいて常に何かできるようにしていたが、24時間はやはり

無理だと感じた。まず、自分が倒れないようにせねばと痛切に思った。夜中にトイレに行つて二人で倒れ、40分動けなかったということもあり、息子も犬の散歩に行つても、私が倒れているのでは？と戻ってきたりするようになっていた。ヘルパーがきてからは、人のお世話を受けるということを早くから考えておいた方がよいと考えが変わった。他のALSの患者さんやご家族に話した。

役所への申請や陳情も、交流会などで聞いていたが、本当に「ALSだけに使えない」のようなことを言われたり、電話をした時も対応が悪かったりしたが、いろいろと支部に相談したことや他のALS患者の前例もあり、スムーズにすすめられた。支部の総会や交流会に来ることでいろいろ教えてもらって本当に助かったが、知らない人がいっぱいいると思う。入会する人が増えればその人達も楽になると思う。

◆事務局から

ALSの方はいろいろな方がいる。進行具合も病気の受け取り方も人それぞれ違う。個人情報のあることも多いし、難しい。ALSだということを知られたくないという思いがある方や家族も多い。今後も交流会などの場で、今までの経験をお話ししてほしい。

転倒に関しては、ALSの方は筋力がないため軸がずれると倒れてしまうと実感した。何をやるにも軸をぶれないようにケアを行った。東京などだと、ALSの方に特化した援助の研修会をやっているようだ。

安保さんの口文字コミュニケーション支援について、本人が作成した用紙が配布された。



【日 時】平成29年11月18日(土)13:00~15:00

【場 所】能代厚生医療センター 2階講堂

【参加者】18名

患者 1名、患者家族 5名 ヘルパー、保健師、ケアマネジャー 他

事務局員が秋田市から到着し、交流会準備をしていると、毎年参加して頂いているTさん遺族の奥さまが、お元気な顔を見せてくださいました。

◆支部長の開会あいさつ

途中道の駅に寄ってセリを買いました。それで遅くなりました。今日はよろしくお願いたします。

◆参加者からの近況報告

○齋藤さん(ご家族)：今回は自宅で療養生活を送る母と、一緒に交流会の参加を楽しみにしていたが、親族が亡くなり、落ち込んでしまい今日は参加出来ませんでした。最近是指も動かなくなり、顔の動きが頼りで、次に何かないかと探していますが、何かスイッチを教えてほしいと相談がありました。マイトビーも試したが開眼できずに承認が難しく使用が困難とわかったことなど最近の状況を聞きました。

参加していた皆さんからも、経験からのアドバイスや情報などが提供されていました。

○元支部長 長門輝美さん遺族のご両親

8月に、息子が亡くなりしばらくは気持ちが落ち込み何もしたくなかった。少しずつ荷物の整理をはじめたが、まだ洋服は片付かない。郵便物が少なくなって寂しい。最期に何を考えていたのか?・・・最期はみんなで見送られて良かったと沢山の思い出と共に、闘病生活、毎日の暮らしを振り返って頂き、複雑なお気持ちをお話しく下さいました。

○副支部長である長谷部ひとみさんのお母様、元秋田県支部長みどりさんも7月に亡くなりました。

参加されている皆さんからはお二人の思い出や生前の姿、闘病の様子、その生き方から学んだ事、介護する専門職として関わる中で教えて頂いたことなど、沢山の話しが聞かれました。

◆感想

この度の交流会は、患者は1名でしたが、現在、闘病を支えているご家族、長い闘病を支えてこられたご遺族の方のご参加が多く、それぞれの立場から、思いを伝えて頂き、新しい情報提供もあり、思い出を語れる時間はとても大切だと感じました。交流会の大切な意義を感じた時間でした。有意義な時間を共有できたと思います。皆さんご参加いただきありがとうございました。そして毎年会場の手配と準備をお手伝いして下さる能代厚生医療センターケアマネの成田様ありがとうございました。



大湯リハビリ温泉病院患者訪問

武田佳子

【日時】2017年9月30日(土) 13:30~14:30

【場所】医療法人楽山会 大湯リハビリ温泉病院

【参加者】患者3名(内事務局1名) 家族2名

病院スタッフ5名(事務局長、看護師長、理学療法士、看護師2名)

事務局員7名(内患者1名) ヘルパー2名

◆Hさん

入院患者さん。発症して8年、入院7年、小坂町出身であり、文字盤でのコミュニケーションを行っている。

イレウスを起こしストーマを造設したが、食事をするとガスで腹部膨満となるため、中心静脈栄養法(IVH)を行っている。週2回リハビリ時にプリンなどを食べる練習をしている。

◆Tさん

外来患者さん。79歳。昨年9月に診断される。鹿角市在住で、妻、息子と3人暮らし。

6年位前から声のかすれがあり、言葉が出にくくなった。言語訓練のため週1回通院している。

食事は普通食を自力で摂取出来ているが、むせることがある。症状が進み排泄が間に合わなくなったり、転倒したりすることが多くなった。

デイサービスを週1回利用しているが、今後、訪問系のサービスも含め検討をする。

◆安保支部長

自薦ヘルパー(2交代)を利用し、一人暮らしをしている。発症して12年。藤里から秋田市に移って3年。

コミュニケーションは口文字を行っている。最初に口の形または目の動きで母音を伝え、あ行やい行などを言って瞬きで伝える方法である。

先日、北海道の北見に行ってきた。秋田空港発の飛行機は小さく利用出来ないため、羽田空港経由での旅で、とても疲れた。ヘルパー2名同行。秋田県にCIL(自立生活センター)がなく、設立をめざす目的のために行った。

※C I L：障害者が地域で自立して生活できるように、障害者自身が運営し障害者にサービスを提供する事業体。運営委員の過半数と事業実施責任者が障害者であるシステム。

◆大湯リハビリ温泉病院

30年位前からALS患者が入院している。現在5名入院中。

◆事務局から

支部活動の紹介。

秋田県のALS患者数は120名程。初期の方は在宅療養だが、多くは病院等の施設で生活している。進行は個人差があり、一人一人違うので、患者本人は自分の考えをしっかりと伝える事が大切。伝えることでお互いが解り合える。

家族で抱え込まず、相談できる人をどんどん増やしていくことで介護負担が減る。前例がないこともやっていくことで、後の患者の支援につながる。自治体も20年前とは違い現在はヘルパーの申請など支障なく受けてくれるようになった。



北海道東北ブロック会議

長谷部 ひとみ

平成29年10月14日(土)秋田市のホテルメトロポリタン秋田で、全国に先駆けてブロック会議が開催されました。残念ながら青森県支部と宮城県支部が参加できなかったのですが、北海道・岩手・山形・福島・秋田の各支部から計30名の参加がありました。

午後1時安保瑠女秋田県支部長の歓迎の挨拶の後、あらかじめ本部から提出の要請があった支部活動報告があり、それぞれの支部が抱えている問題や、課題が改めて明らかになりました。事務局体制も各県により事情が異なり、本部からの希望になかなか添えない場合も多いという事が明確になりました。

本部からは金澤副会長に参加していただき、厚生労働省への要望書の説明や、新しい会員名簿管理システムについても議論が盛り上がりました。各県の事務局メンバーが顔を合わせる機会はありませんので、たいへん貴重な話が聞けました。

次回はブロック会議に代えて、全国支部運営実務者(事務局長)会議・研修会が開催されることを確認して午後4時に閉会しました。



○ブロック会議出席者からの感想

・地元で開催された会議は、本部・他県の活動をストレートに聞き入れることができ今後の活動に反映しなければいけないと実感しました。

本部から来てくれた金澤さん、ありがとうございました。(佐藤)

・初めての参加でした。各支部の事務局の構成人員や運営方法などそれぞれ特色があり、その中で出来ることを一生懸命考え、意欲的に活動している様子が感じられました。各支部の活動を参考にしながら今後の秋田県支部の活動に役立てていければいいと思います。

(武田)

・日本ALS協会本部と各県支部の顔を合わせて話し合いができる、唯一のブロック会議に参加して感じたのは何処の支部も、そして本部の役員もALSに何らかの形で参加してから長くボランティアとして患者、家族の支援に真剣に取り組んでいる姿でした。今後も患者・家族の会として組織作りが続けていけるよう各県支部の協力は必要であると感じました。

(鈴木)



近況報告

腸活始めました

安 保 瑠 女

前回の近況報告で、毎日食事を楽しんでいるとお伝えしましたが、その後、割と順調だったお通じがスランプに陥ってしまっていました。

下剤を増やせど増やせど出てくれないのです。ただでさえ呑み込みが健常者のようにはうまくいかず、ガスでお腹がパンパンになりやすいのに、お通じも加わるのですから、お腹は痛い吐き気はするはで、これでは食事を満足に楽しむことができません。まさに苦行です・・・。

「お腹がパンパンで食欲なし→手っ取り早く経管栄養→嚥下機能が低下→食べられない」の負のスパイラルに陥りそうな状況に、これはいかん、何とかせねば！と、わたくし、お正月明けから今流行りの腸活を始めました。

腸活は、善玉菌を増やして腸内環境を整えることです。善玉菌を多く含むヨーグルトや納豆等の発酵食品を食べるといいそうで、ヨーグルト(毎日100g程度食べるといいそうです。)と納豆を食べてみることにしました。また、ヨーグルトは相性があるそうで、まずは自分に合ったヨーグルト探しからのスタートです。さらには、善玉菌のエサとなるオリゴ糖や食物繊維が多い食材も食べるといいそうで、具だくさん味噌汁やスープ、ネバネバ系の食材も意識して食べてみることにしました。ちなみに納豆はもっばら、県南出身のヘルパーさんに教えてもらった納豆汁です。「くっさーい！」と叫びながら作ってくれます。

その結果・・・

ヨーグルト探しの1つ目は無反応、2つ目は逆にお通じが悪化を経て、3つ目でついにお通じに変化が現れたのです！

今では下剤を使うことがなくなり、これには私もヘルパーさんもびっくりです。

おかげでまた毎日食事を楽しんでいます♪

と、ここで話がちゃんちゃんに行けばよかったのですが・・・

先日、採血をする機会がありまして、主治医に、暴飲暴食とか何か心当たりはないかと聞かれてしまいました・・・。

あります。心当たり。。少々楽しみ過ぎました。。

栄養過多とのこと。

お通じに悩んでいる方は、腸活、お試してください。

そして、みなさんも生活習慣病にも気を付けてお過ごしください。

会員の作品から

筋萎縮性側索硬化症(ALS)の松本茂を偲んで

櫻田美穂

ALSの「松本茂」 生き抜いた三十三年 夫人とともに

五十歳で発病すれど 農業とALSとの闘いに暮れ

百姓に 誇りと夢を持ち続け 呼吸器さえも使いこなして

松本は 「介護なければ廃人と」 介護保険に風穴開ける

生き抜いた 大潟村で 菜の花と桜の道を ゆっくり巡らん

(No.732能代短歌会玫瑰五月号より転載)



追 悼

ホーキング博士

2018年3月14日英国のホーキング博士の死去が報道されました。追悼の意を込めて、以前にJALSA会報に載ったホーキング博士のインタビュー記事を紹介します。

「運動ニューロン疾患を患って」 S.W.ホーキング

1990年9月、イギリスの著名な宇宙物理学者ホーキング博士が、東京で開かれた学会に出席するため来日されました。博士は若くしてALSに侵され、上下肢共に麻痺し、気管切開して声も失っていますが、音声の出る特殊なパソコンを使って現在も教壇に立っておられます。今回の来日でも、東大及び朝日講堂で宇宙について講演され、聴衆を魅了されました。博士はお忙しい中、私たちのために特別に時間を割いて下さり、単独インタビューに応じて下さいました。以下、宿舎をお訪ねしてうかがったお話をご報告いたします。

(文責=日本ALS協会事務局)

* JALSA20号の原文のまま転載しています。

発病

私はよく聞かれます、「運動ニューロン疾患にかかっている、いかがですか」と。私は「なるべく普通の生活をするようにし、病気のことを考えたり、あまり多くはありませんが、したいことが出来ないのを悔やんだりしないようにしています」と答えています。

運動ニューロン疾患にかかったと知った時は、大変ショックでした。子供の頃から、体力的にはあまり恵まれていませんでした。ボール遊びは得意ではありませんでしたし、字は下手で、先生をがっかりさせたものでした。多分こういう理由からでしょう、スポーツや体操はあまり好きではありませんでした。

しかし、17歳の時、オックスフォード大学に入学して、状況が変わったように思います。ボートを始めたのです。全英選手権には出場できませんでしたが、大学対抗試合に出るまでになりました。

大学三年の時、身体がおかしいのに気づき、はっきりした理由もないのに、一、二度、転びました。翌年ケンブリッジ大学に移った時、父が私の異状に気づき、かかりつけの医師に診せました。その医師は私を専門医に紹介し、21歳になって間もなく、検査入院しました。

二週間入院して、その間、じつにさまざまな検査を受けました。医師は私の腕から筋肉のサンプルを取り、電極を差しこんだり、脊髄に造影剤を注入し、ベッドを傾けた時、上がったたり下がったりするのをX線で観察しました。

検査をすべて終わった後、医師は私に病名を告げず、多発性硬化症でもなければ、典型的

な症例でもないと言っただけでした。その様子から、私の病気が進行性で、ビタミン剤を与えるくらいしか、治療法がないのだなと思いました。彼らが、ビタミン剤に大した効果はないと思っていることもわかりました。良くない病気であることははっきりしていましたから、さらに詳しいことを聞く気にもなりませんでした。

不治の病に侵され、数年の生命だとわかったのは、少々驚きでした。何でこんなことが私の身に起こったのか。なぜこんな形で亡くならなければならないのか。

しかし入院していた時、あまり口をきいたことはないのですが、私の向かい側のベッドで、一人の少年が白血病で死ぬのを見ました。気持ちのいい光景ではありませんでした。

私よりずっと悪い人がいるのは明らかですし、それに比べれば、私の症状は病気というほどでもありませんでした。気分が落ち込みかけるといつも、あの少年のことを思い出します。

自分に何が起ころうとしているのか、どのくらいの速さで病気が進むのかわからないまま、私はぶらぶらしていました。医師は私が大学に戻って、始めたばかりの一般相対性理論と宇宙論の研究を続けるようにと言いました。しかし数学的な教養があまりなかったので、研究は大して進んでいませんでした。それに、いずれにしても、学位を取るまでは生きられないだろうと、悲劇の主人公のような心境でした。

私はワーグナーの曲をよく聴きました。雑誌に、私が深酒をしたとありますが、それは誇張です。ただ、一度そういう記事が出ると、話が面白いからと、他誌もそれを真似し、そうして何度も記事になると、本当に違いないということになってしまいます。

その頃の私の夢はかなり乱れたものでした。病状の診断がつく前、私はすっかり生きる気力をなくしていました。何事もする値打ちがないように思えました。

しかし退院して間もなく、処刑される夢を見ました。私ははたと、もし処刑が延期されるなら、自分でできることで、値打ちのあるものが沢山あることに気づきました。また、私の生命を犠牲にして、他の人を救う夢を数回見ました。結局、いずれ死ぬのなら、何か良いことをした方がよいということでしょう。

結婚、研究生活

しかし私は死にませんでした。私の将来に雲がかかってはいましたが、驚いたことに、現在の生活を以前より楽しんでいることを知りました。研究も進み、ジェーン・ワイルドと婚約しました。彼女とはちょうど私の病名が診断された頃に知りあいました。

婚約が私の人生を変えました。私に生きる目的を与えてくれました。しかしそれはまた、結婚しようとするなら、就職しないといけないことを意味しました。そこで私はケンブリッジのキーズ研究奨学金を申請しました。驚いたことに奨学金をもらうことができ、数か月後に結婚しました。

キーズ奨学金によって、当座の就職問題は解決しました。理論物理学を専攻したのは、私の病気が深刻なハンディキャップにならない数少ない分野の一つであるという意味で、幸運でした。幸いなことに、私の障害が進むと共に科学的な評価が高まり、授業しなくても、研

究だけをしておればよい地位を用意してくれました。

住まいについても、私たちは幸運でした。結婚した時、ジェーンはまだロンドンのウェストフィールド・カレッジの学生だったので、週日はロンドンへ行かなければなりませんでした。そのため、私が自分で身の回りのことができる所をどこか、しかも遠くまで歩けませんから、市の中心部に見つけなければなりませんでした。

私たちは大学の学部のすぐ近くに、小さな家を見つけました。他のカレッジの所有で、奨学生の一人に貸していましたが、その学生は郊外に買った家に引っ越していました。彼は使用権が三か月残っていたので、私たちに又貸ししてくれたのでした。

この三か月の間に、同じ通りに別の空き家があるを見つけました。近所の人がドーセットに住む所有者を呼び、若い人たちが住まいを捜しているのに、家を空けておくのは恥だと説得してくれ、借りることができました。

そこに住んで数年後、その家を買って修理したいと思い、大学にローンを頼みました。大学は調査し、あまり良い物件ではないと判断したので、私たちは住宅協会からローンを借りて買い、修繕費用は両親が出してくれました。

そこには四年住みましたが、私が階段を昇り降りするのがとても難しくなりました。その頃までに、大学はもっと私を評価してくれるようになり、奨学金係も人が変わりました。

彼らは、大学が所有しているアパートの一階を提供してくれました。部屋が広く、ドアも広くて、私にはとても都合のよい住居です。場所も中心部で、大学の学部やカレッジへ電動車イスで通えます。大学の庭師が管理する庭園に囲まれており、三人の子供たちにも良いところです。

病が進む中で

1974年まで、私は自分で食事ができ、ベッドに出たり入ったりすることができました。ジェーンは他人の手を借りずに、私を助け、子供を育てていました。しかし、症状が次第に難しくなってきたので、研究生の一人に同居してもらうようにしました。住居費は無料で、面倒を十分に見る代わりに、私の寝起きを手伝ってもらいました。

1980年に、支援協会と民間看護婦の助けを借りることにしました。彼女たちは朝夕、1～2時間来てくれました。これが1985年に、肺炎になるまで続きました。この年私は気管切開し、以来ナースの介護を24時間受けなければなりませんでしたが、いくつかの財団の援助でそれが可能になりました。

手術前から、私の言葉は次第に聞き取りにくくなり、私を知っている少数の人しか理解できませんでした。それでも何とか、コミュニケーションはできました。秘書に口述筆記させて学術論文を書くことができましたし、講義も、私のしゃべったことを通訳に繰り返してもらうことによって、行うことができました。

しかし、気管切開手術で、私は完全に声を失いました。しばらくの間私がコミュニケーションできる唯一の方法は、他の人が単語カードを正しく指した時に眉を上げて合図し、一語一

語綴るやり方でした。そのような方法では、学術論文はいうまでもなく、会話をするのもかなり難しいことでした。

音声合成装置を使用

しかし、カリフォルニアのW・ウォルネスというコンピュータの専門家が私の窮状を耳にし、彼が書いたコンピュータプログラムを送ってくれました。これによって、私はスクリーン上の一連の語群から、手でスイッチを押し、言葉を選べるようになりました。そのプログラムは、頭や目を動かして操作できるスイッチでもコントロールできました。言いたいことを作り上げると、それを音声合成装置に送ることができます。

最初私は、このプログラムをデスクトップ(卓上型)コンピュータで使っていただけでした。しかし、ケンブリッジ応用研究所のD・メイソンが、私の車イスに小型の携帯用コンピュータと音声合成装置を取りつけてくれました。そのおかげで、以前よりずっと便利にコミュニケーションできます。

私は一分間に15語、綴ることができます。書いたことを音声で出したり、ディスクに保存することもできます。それをプリントしたり、呼び出して、私が今やっているように、文章ごとに音を出してしゃべることもできます。このシステムを使って、私は本を著し、いくつもの学術論文を書きました。科学分野、一般分野での講演もたくさんし、好評を得ました。これは音声合成装置の力によるところが大きいと思います。

声はとても大切です。不明瞭な声ですと、「おかしいんじゃないの」と、人は精神的に欠陥があるように扱いがちです。この音声合成装置は、これまで私が聞いたどの機械よりも優れています。抑揚を変えることもできますし、ロボットのような話し方をしません。アメリカ式の発音であるのが唯一の難点ですが、会社は目下、イギリス式のものを作成してくれています。

できることは沢山ある

私は事実上、大人になっただけでなくずっと運動ニューロン疾患を患っています。しかしそれは素晴らしい家族を持つ妨げにはなりませんでしたが、仕事の面で成功することを妨げもしませんでした。私の妻や子供たち、その他大ぜいの人や協会の援助のおかげです。

私は幸運にも、病状の進行が他の方のケースより緩やかでしたが、希望を捨ててはならないと思います。ALSになっても、できることが沢山あります。私はこうして世界中を旅行していますし、これからも続けたいと思っています。つらい病気ではありますが、希望を失わず、負けずに頑張ってください。

事務局の機器類紹介



日本ALS協会秋田県支部では、会員、遺族の方がより有効に利用してほしいと寄付のあった機器をまとめました。機器は原則差し上げます。会員優先としますが数に限りがございますので、申し込み先着順とさせていただきます。申し込みはFAX、秋田県支部メールでお願いします。

支部在庫リスト

- ① 伝の心(ノートパソコン) 2台 説明書付き
- ② メラ唾液持続吸引チューブ(太・芯線有)11本
- ③ 唾液吸引ポンプ(接続チューブ付き) 3個
- ④ 電池式唾液吸引ポンプ(接続チューブ付き) 1個
- ⑤ アンビューバック(マスク付き) 1個
- ⑥ プリンター 1台
- ⑦ ピエゾニューマティックセンサースイッチ 一式



※機器の送料はご負担頂きます。

※機器のトラブル、メンテナンス等、支部では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

事務局からのお知らせ

日頃は日本ALS協会秋田県支部をご支援下さり、誠にありがとうございます。
秋田県支部もおかげさまで、設立32年をまもなく迎えようとしています。
その間多くの方にご支援いただき、今日まで活動を続けてきておりますが、
年数も経ち、皆様におかれましても様々な事情の変化もあろうかと思えます。

もし何かのご都合で今後の支部だよりの送付を希望されない場合は、ご遠慮
なく事務局にお申し出下さい。次回の発送より調整いたします。

また1部ではなく、複数の部数を送ってほしいというご要望にも対応いたし
ます。

会員登録のあるなしに関わらず、お気軽にお申しつけ下さい。

今後とも変わらず、日本ALS協会秋田県支部および難病支援にご理解、ご協
力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

連絡先 FAX 018-832-8778
 MAIL als-akita@outlook.com

平成30年度(第32回)日本ALS協会 秋田県支部 総会・交流会開催のお知らせ

日時:平成30年6月3日(日) 13:00~15:30

場所:遊学舎 会議棟

〒010-1403

秋田市上北手荒巻字堺切 24-2

Tel : 018-829-5801~2 / Fax : 018-829-5803

E-mail : yutori@circus.ocn.ne.jp



日程:

受付開始	: 12:30~
総会	: 13:30~13:20
記念撮影	: 13:20~13:30
朗読	: 13:40~14:00
口文字コミュニケーション	: 14:00~15:00
交流会	: 15:00~15:30

◆連絡先

Tel : 090-5838-3606 / Fax : 018-832-8778

E-mail : als-akita@outlook.com

★申し込み不要です。皆様のご参加、お待ちしております。

事務局メンバー紹介

塚田 咲子

今年からの新メンバー
事務局の若返りに貢献



訪問看護師3年目です。
仕事を通してALS協会を知り、ぜひ
活動に携わりたいと思いました。
これからよろしくお願いします。

武田 佳子

訪問看護師の経験あり
現在は食べ歩きと温泉
巡りが趣味



安保 瑠女

秋田市在住のALS患者
歴代支部長の中で最も若い!!



梅川 素子

横手市在住の遺族
在宅の母をサポートした
経験者



佐藤 タ子

秋田市在住
看護師としての経験豊富



鈴木 光子

秋田市在住
ケアマネとして活躍中



田村 沙央里

由利本荘市在住
訪問看護師の仕事は現在
子育てのためお休み中



木下 彩子

秋田市在住
看護大学教員・
支部だより編集担当



岸本あや子

秋田市在住
会計担当



福井 喜美

大潟村在住
相談支援専門員



齊藤 康子

能代市在住の患者家族
多忙ながら、
情報発信力抜群



長谷部ひとみ

秋田市在住の遺族
本部の北海道東北ブロック
担当理事



星 佳子

秋田市在住
ケアマネとして活躍中



佐々木 奈々子

秋田市在住
介護支援専門員・保健師





ご寄付ありがとうございました

平成29年10月1日～平成30年3月31日 敬称は省略させていただきます

- ・長門 建作 (八峰町)
- ・田中 清和 (横手市)
- ・山本 嘉子 (大潟村)
- ・渡邊 アチ子 (能代市)
- ・土井 宏子 (大潟村)
- ・福井 紀代子 (津島市)
- ・原 賢寿 (秋田市)
- ・飯村 禮子 (練馬区)
- ・秋田友の会 (秋田市)
- ・小坂 順子 (羽後町)
- ・長門 百合子 (秋田市)
- ・赤い羽根募金 (秋田市)
- ・炭元 サダヲ (大潟村)
- ・石塚 柏 (大仙市)
- ・石田 あや子 (仙北市)
- ・藤島 幸子 (能代市)
- ・小林 収 (大潟村)
- ・櫻田 美穂 (能代市)

皆様の心のこもるご寄付は、支部活動の源となっております。

ご厚志に深く感謝申し上げます。

郵便振替

口座番号：02510-3-7658

加入者名：日本ALS協会秋田県支部

ご寄付のお振込みは、上記へお願いいたします。

* 日本ALS協会へ入会希望の方は、次頁『入会申込書』をFAXしますと
会員納入の振込票が送られてきます。

日本ALS協会
会長 殿

入会申込書

私(当団体)は、貴会の趣旨に賛同し次のとおり入会を申し込みます。

平成 年 月 日

フリガナ	
入会者氏名	性別 (男・女) 大正・昭和・平成 年 月 日生 (才)

団体の場合	フリガナ
	団体名
	フリガナ
	代表者氏名

- 正会員 議決権を持つとともに、会運営上の責任を分かち担う
(個人のみ) (患者・同居家族は原則として正会員) 年会費 4 千円
- 賛助会員(個人) 年会費 4 千円 × 口数 口
- 賛助会員(団体) 年会費 5 千円 × 口数 口

会員区分	<input type="checkbox"/> 患者本人 <input type="checkbox"/> 同居家族 <input type="checkbox"/> 別居家族 <input type="checkbox"/> 親族 <input type="checkbox"/> 遺族 <input type="checkbox"/> その他一般 <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 医療・保健・福祉関係 <small>※専門職の場合、科目・職種 ()</small>
------	--

住所 (会報等送付先)	1. 自宅 2. 勤務先 3. その他 〒 (-)
	TEL
	FAX
	Eメール

入会者が次のいずれかの場合はお書きください

患者本人である ⇨ 家族名 続柄

家族・親族である ⇨ 患者名 続柄

勤務先 (医療/福祉関係者はなるべくお書き下さい)

業 種 (団体会員の場合はお書き下さい)

協 会 使 用 欄	(摘 要)	(会員番号)	入力日	担当者
-----------------	-------	--------	-----	-----

き
り
と
り
線



編集後記

3月の終わり、まだ時々冬のなごりを思う日もありますが、日差しに風に春を感じる今日この頃です。皆さま、お変わりなくお過ごしでしょうか。

今回も交流会や患者訪問等、支部の活動内容をお届けします。

支部設立から30余年経過し、ALS患者を取り巻く社会状況の変化を感じながらも、少しずつ協力の輪を広げ活動を続けております。今の時代に合った支部活動を模索しながら、今後も活動していきたいと思っておりますので、皆様、これからもご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



NHK 歳末たすけあい



寒い羽根共助募金

この支部だよりは歳末助け合い共同募金の助成金で発行しています

日本ALS協会秋田県支部だより 第61号
